①旧松山街道

松山から土佐堺までの道を伊予では土佐街道と呼び、土佐では高知城下から伊予堺までの道を松山街道という。
この道は土佐と伊予を結ぶ重要な往還で、両国の物資交易・文化の道であり、百姓一揆や脱藩志士が命がけで駈けぬけた世直しの道でもあった。
解説:松山街道は道幅が一間(1.8m)という基準があり、歩道としては広い。石神から樺休場の間には珍しい石畳も残っている。

②鈴ケ峠の燈明台

鈴ケ峠には重要文化財に指定されてもおかしくない燈明台が二基建っている。とりわけ見事なのは、宝珠と笠のなめらかな曲線が織りなす繊細な彫刻の美しさであろう。「天晴」という年号が刻まれているが、日本の年号にはない。「天晴」という年号は、全国では土佐だけにしか見えない。
解説:天晴元年は、慶応3年(1864年)

⑤清水井手、虎吾堀

通称清水井手と呼ばれる用水路は1860年、生活や農業用水の確保に苦労していた清水・八頭・薬師堂の先覚者「左京義三、左京常吾、山本虎吾、山本広次」が中心となり、黒森山東側の稲村谷から約7kmにわたって山肌を削って開設したものだ。地元の人約100人が昼夜を問わず掘り続け、1年6ヶ月間で完成させたという。
その後虎吾は、この水を溜めて使うべく、1反5畝の畑をコツコツ掘り、1887年に用水池を完成させた。
解説:清水井手は維持管理が大変であるため、平成になり町の事業でパイプラインが埋設された。

八里塚から見た風景

③黒森山(1017m)

越知町横畠と仁淀川町の境界点にあり、大昔は修験の道場でもあった。山頂には熊野蔵王権現を奉った黒森神社がある。
今は下ノ宮から歩いて登れるよう8.2Kmの旧松山街道が整備されている。山頂は360度の視界が開け展望は絶景だ。仁淀川町寺村からは自動車でも山頂まで登れる。

④大山祇神社(町指定文化財)

明治12年(1879年)、今井浅治、今井吉宗、今井友祐の3人の長州大工により改築されたものだ。本殿は鞘堂で囲まれているため、現在も新築同然の状態で保存されており、長州大工の緻密で精巧な彫刻は、見るものをうならせてしまう。また、拝殿には当時地元の人が描いた36歌仙と花鳥図・12支の天井絵が残っている。

解説:明治15年この神社の境内で坂本直寛(龍馬の甥)らによる自由民権集会が行われた。

⑥八里塚 ⑦九里塚 ⑧合中

焼坂に自然石に八里塚と書いた道標がある。高知の江口番所から8里であることを示したものだ。
樺休場から清水集落の方へ約15分歩いた所には八里塚と九里塚との真中という意味の合中(相中)という石の道標もある。平成5年に発見された。高知県下でも合中の報告例はなく大変めずらしい。2つのものの中間を意味し、清水村と栂ノ森村とで街道の道普請の境に置いたものであろうか。

松山街道散策マップ MAP